

作詞：三好達治（1957年）
訳詩：伊賀健一、石川忠晴（2011年）

「東京工業大学歌」新訳/英訳
The Song of Tokyo Institute of Technology

The Lyrics by: Tashuji Miyoshi (1957)
Translated by: Kenichi Iga and Tadaharu Ishikawa (2011/2020)

The Lyrics-Original

Modern Version 2011

English Translation 2011

1 番の原詩

逝くものは 斯くのごときか、
長江は昼と夜となし。
はるけき日 ゆかしきいさを、
指す方の はた窮みなき。
嘆じてん 聖さびはや。

2 番の原詩

悠久の 黄金の環、
めぐりくる陽は久方ゆ。
青春の園生にたらふ、
手力はわがもる腕に、
重き扉をいざ若人よ。

3 番の原詩

くろがねの 扉を開け、
工人よ 窮理者よ友
かつは見よ みどりの木の間、
すばる星 灯を点じたり。
友垣が 七つの窓辺。

4 番の原詩

七彩の ものの文すべ、
ただ光 彼方に白し。
さやかなり 月毛なりかし、
騎してゆけ はるけくもこそ。
大きな岡、こえていく岡。

1 番の新訳

なが なが か
流れゆくものは、かようなものか、
たいが なが ひる よ つづ
大河の流れは、昼と夜となく続く。
はるか昔の日、我らがなつかしき先達、
むかし ひ われ せんだつ
向かう方は、なんと遠く極みなきことか。
むか かつ とお きわ
感嘆するは先人の生き様、聖のようだと。

2 番の新訳

えいせん かがや こんじき たいよう
永遠に輝く金色の太陽、
めぐりくる陽は久しく変わることがない。
この青春の園、生きるに足りようぞ、
この力は、わがもる腕にあり。
その力は、わがもる腕にあり。
おも とびら たた わこうど
重き扉を叩け、いざ若人よ。

3 番の新訳

くろがねの 扉を開け、
技術を極め真理を追求するは みな友。
夕時、緑の木の間を通して見える、
すばるぼし ひ
昴星が灯をともした。*)
われ とも まどべ まな
我らは友、7つの窓辺に学ぶ。

4 番の新訳

7つの いろどり はな がくそう
七つの彩を放つ学窓、
その光が 彼方に照らす白きもの。
さやかなり、月毛色の馬ペガサス。
あの馬に乗って行こう、はるかに、
おお おか い いく た おか
大きな岡、越えて行こう幾多の岡。

1.

Progressing without rest, it's just like;
Like a deep river that flows day and night.
Long, long ago, our courageous graduates,
Headed while limited by no goal, it's great!
We respect them, as Saints.

2.

An everlasting golden sun-ring,
Its circulating light an unchanging substance,
Our school campus, it's valuable to live here.
The tremendous power to continue to live is in our arms.
Knock on the heavy gate, young folks, now!

3.

Open the steel gate together!
People pursuing skills and truth, we are friends.
Look up, through green tree leaves,
The Pleiades stars, they have turned on the light.
We are friends, learning in seven windows.

4.

Seven rainbow-colored figures, that's art.
The light from it shines on a white body.
Clearly visible, it's Pegasus with great wings.
Let's ride on to proceed far and far,
Overcome a great hill and further hills toward the future.